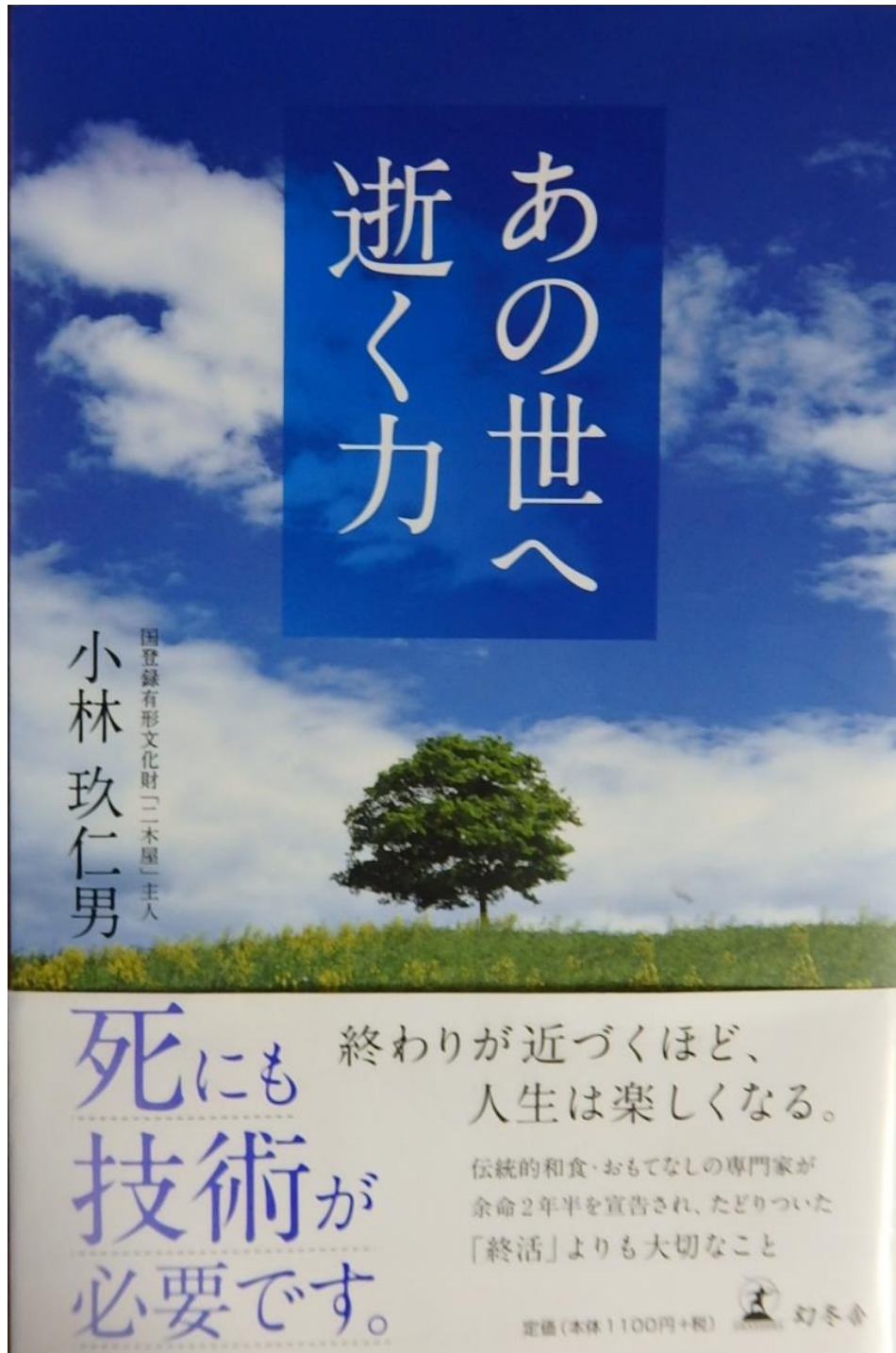
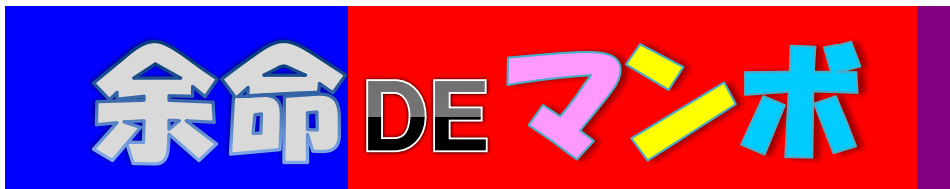


◆近著が、アマゾン第1位になりました。

●二木屋主人、小林玖仁男は、「間質性肺炎」という難病にかかり、その経験をもとにしました。（「あの世に逝く力」幻冬舎刊）。アマゾンの売れ筋ランキング「死生観」の部では、第1位になりました。



◆ 「旅行記」のご紹介



- この「最期の旅行記」のタイトルは、「余命 DE マンボ」と名付けました。ふざけたタイトルですが、「余命を生きる!」というような、重く、痛々しく、歯を食いしばるような必死なタイトルはちょっと苦手。あくまでも、軽妙でバカっぽいほど明るくいきたいと思っています。
- 何故タイトルは「マンボ」なのか？ 候補に「マンボ」「サンバ」「ルンバ」がありました。しかし「ルンバ」は掃除機みたいなので却下。脳裏に流れたのは、「♪逝かないでお嫁サンバ（郷ひろみ）」「♪酔わせてマンボ 逝かせてマンボ（殿さまキングス・恋は紅いバラ）」でした。こういうおバカがいいですね。（でも「マンボ」がさらにバカっぽいようで）
- 「サンバ」は、「散、散る」に通じて、これも意味深い。マンボは、たくさん歩こうの「万歩」に通じる。だんだん歩けなくなっていくますが、がんばってたくさん歩こうという気持ちがあります。さらに「マン」は、「万里」「万感」「満願」「満足」と、ゴール感がある。だからこの「最期の旅行記」は、「余命 DE マンボ」に決定しました。
- この「最期の旅行記」には、必ず「ゆるキャラ」が同伴します。テレビ番組で「ゆるキャラ」同伴の旅行番組を見て、私もやってみたいとハマりました。すると旅行が2倍楽しくなり、写真が3倍おもしろくなりました。オリンピックの選手も、遠征時に自分の同士のといえるマスコットを連れて歩くようで、最近、キャラクター同伴者がたくさんいます。
- このマンボシリーズ。ずっと続けたい気もしますが、余命の中でやらなければならないことが他にもあり、15号くらいで休刊にします。それまでの短い期間ですが、読んでいただければと思います。晩年とはけっこう楽しいものです。ご一緒に楽しんでいただきたいと思います。

小林玖仁男